

職場の教養

フクタニニュース

発行



～チーム岩手の応援
よろしくお願いいたします～



久しぶりにカーリングの話を・・・2月7日～14日まで北海道稚内市にて第38回全農日本カーリング選手権大会が始まります。今年は北京オリンピックの代表チームを決める重要な大会となっております。2月8日からはNHKBS1にて、毎日2試合の生放送が予定されております。女子ではロコソラーレ、男子ではコンサドーレが連覇しており、そこに女子では中部電力、北海道銀行、富士急が、男子はSC軽井沢クラブ、TMkaruizawaが挑みます。そしてなんと今年はチーム岩手（男子）が東北代表で出場しますし、女子は富士急に苦米地美智子さんが補欠として出場します。男子を率いるのは苦米地賢司さんということで、夫婦での出場です。

さらにこれはきっと大きな注目を集めると思うのですが、チーム岩手には小学校5年生の松原永和くん（岩手大学付属小学校）がサードのポジションで出場します。小さな体ながら20kgのストーンを的確にショットできる身体能力にきっと注目が集まるでしょう。

楽天に復帰する田中投手の会見のごとく「ワクワクが抑えられない!!」皆様応援のほどよろしくお願いいたします(o^)/



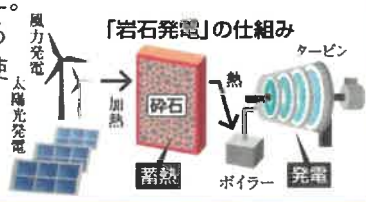
～ 安山岩電池 ～



安山岩の融点は1,300度～1,400度である。ゆえに石焼ビビンバの器は具材を入れて熱しても溶けることはない。男鹿の名物料理「石焼鍋」は石が高温の熱を保存できるから調理が可能となる。総じて火山岩は熱による崩壊に強く、高温の熱を蓄積できる。ただし、比熱は小さいので水に比べて4倍以上温めやすく冷めやすい。内陸の砂漠が極寒酷暑となるのは水がないから。そんな火山岩の特性を生かしてドイツのシーメンス社が「岩石蓄電システム」を実用化した。その仕組みは、800m³の容器を厚さ数mの断熱材で覆い、その中に30mm程度の碎石を入れる。風力発電で得た電力によりヒーターとファンを稼働させて熱風を作り出し、碎石の入った容器に送り込む。すると、内部の碎石が熱を吸収し、電力を熱エネルギーにして蓄積する仕組みである。電力を取り出すときは、碎石の熱で水蒸気を作りタービンを回して発電する。800m³の碎石を600度で保存するという条件で、電力にしておよそ3万kwhに相当する蓄電が可能である。

当社の電力使用量の1週間分である。風力発電は気象等による発電量のバラツキがあるため、安定した電力供給に効果が期待できるらしい。今の時代なんとローテクなことと思ってしまうが、リチウム電池の半分の変換効率ながら、コストは10分の1で済む。これは大きな強みだろう。ただ場所をとるので都市空間には向かないだろう。貯水池のような貯電場がぼつぼつできるのかもしれない。遅まきながら、環境省の来年度予算に検証事業費5千万円が計上された。希少金属の代用を碎石が果たせる可能性を知って、ちょっとした使命感が湧くのであった。

※文中の数値は全て概算です。



松下電器の創業者、松下幸之助が、日本に週休二日制を導入されるにあたり「1日は休養、1日は教養」との言葉を残しています。教養があるからと言って、試験に合格するわけでもなく、実利を伴うわけでもありませんが、教養は「常識的判断」「人間の品格」を高めてくれるものだと思います。わが社でも「職場の教養」という冊子を配布して朝礼で輪読するなど活用しています。一日一題、300字ほどの読み物ですが、読む習慣にもなると思います。コロナ禍で出かける機会が減り、余暇の過ごし方も考えざるを得ないとき「10分でも教養」はいかががでしようか。



コロナ第3波が到来し、緊急事態宣言が出されたと知った。猫の僕にも感染するのだろうか。などと心配はしていない。マスクも手洗いもしていないが、そもそも外へ出ないし、自分から進んで媚びを売る密接接待はしない！超「疎」な日常で毎日が緊急事態宣言状態なのだ。しかし、改めて人間の社会を見るとなんと密接に繋がって活動していたのだとわかった。特に飲食の場は、理解、共感、発散、感謝、慰安、記念、祝賀、和み、癒し（陳情、談合も？）などなど空腹を満たす以外の目的がある。人間の空腹感、胃が空っぽになったとき以外に、今まで食べておいしかったものを見ると脳が空腹指令を出すらしい。いわゆる「別腹」で、その空腹感が人間の「食文化」を作ってきたのだろう。そんな中飲食業界では「黙食」という作法が出てきたようだ。節分の恵方巻状態かあ。おっと、長々と知ったかぶってしまった。ともあれ、鬱々として楽しめない人間を見ていると、春になり桜が咲いたら外で愉快地花見ができるよう猫神に祈ってあげている。 **今月の一言**

「人はつながって生きてるんだな」

DVD版概要

DVD版会社概要作りました。ご希望の方には差し上げます。ご連絡ください！



編集後記

先日、日刊岩手建設工業新聞さんが先月のフクタニニュース200号について「時評」というコーナーで取上げてくれました。お褒めに預りご褒美をいただいた気分です。その後、ある建築屋さんで同じことをやってみたくて事務所いらっしやっただ方がいてうれしかったです。手書きではないですが、電子化が進む中、今後もこの紙に皆で『想い』を発信していきたいと思えます。